東京大学英語対策講座

日本で最難関の大学で出題される英語の試験に必要な力とは，実は基本的な英語力と，それを応用する力に思考力です。

特に，多くの東大受験生を悩ませる第5問で出題される物語文においては，論理力，文脈力といわれる前後関係から類推する力が求められます。

東大の英語に限った話ではありませんが，満点を取る必要はありません。7割の得点率で十分合格を手にできます。

絶対落としてはいけない問題を取ること，多岐にわたる出題傾向において苦手分野を作らないこと，そして試験時間内に全ての問題を解ききること，以上を念頭に東大の対策を進めていきましょう。

肘井　学

目次

第１講　要約　1-(A) 対策①　P 4

第２講　空所補充　1-(B) 対策①　P16

第３講　英作文　2-(A), (B) 対策①　P24

第４講　正誤・下線部和訳　4-(A), (B) 対策①　P34

第５講　物語文　5 対策①　P42

第６講　要約 1-(A) 対策②　P52

第７講　空所補充　1-(B) 対策②　P60

第８講　英作文　2-(A), (B) 対策②　P70

第９講　正誤・下線部和訳　4-(A), (B) 対策②　P86

第10講　物語文　5 対策②　P94

※本テキストは，一部問題において東京大学の入試問題を改変して使用しております。
詳細はテキストをご確認ください。

第１講　要約 1-(A) 対策①

(A)―①　以下の英文は，高齢者にやさしい (age-friendly) 町づくりを促進するための世界的な取り組みについて論じたものである。この文章の内容を 70 ～ 80 字の日本語で要約せよ。句読点も字数に含める。

The age-friendly community movement has emerged as a powerful response to the rapidly growing aging population. Although definitions of “age-friendly community” vary, reflecting multiple approaches and methods, many models highlight the importance of strengthening social ties and promote a vision that takes into account all ages. For example, Kofi Annan, who served as the seventh Secretary-General of the United Nations, declared in the opening speech at the UN International Conference on Aging in 1999, “A Society for All Ages embraces every generation. It is not fragmented, with youths, adults, and older persons going their separate ways. Rather, it is age-inclusive, with different generations recognizing and acting upon their common interests.”

The World Health Organization and other international organizations further articulate this premise by defining aging as a lifelong process: “We are all aging at any moment in our life and we should all have the opportunity to do so in a healthy and active way. To safeguard the highest possible quality of life in older age, WHO endorses the approach of investing in factors which influence health throughout the life course.”

NOTE

In practice, however, the age-friendly community movement has focused primarily upon the needs and interests of older adults and their caregivers and service providers. In doing so, it has failed to gather enough data from youth and families about what produces good living conditions in a city or about opportunities for and barriers against working together with older adults.

What accounts for this gap between vision and practice? One answer may lie in the common assumption of the age-friendly community movement that what is good for older adults is good for everyone. In other words, if the age-friendly movement succeeds in making communities suitable for older adults, those communities will then be suitable for all generations. While there are many shared interests among different generations, recent studies in the United States and Europe indicate that young adults and older adults differ in their voting patterns and attitudes more than at any time since the 1970s. These studies suggest that in order to fully understand what constitutes a city that is friendly to people at different stages of the aging process, it is critical to gather data from multiple generations about what makes a city good for both growing up and growing older.

(20 東京大 1-(A))

[Communities for All Ages: Reinforcing and Reimagining the Social Compact, The Global Age-Friendly Community Movement: A Critical Appraisal by Philip B. Stafford © 2018 Berghahn Books Inc, Reproduced by permission of Berghahn Books Inc]

NOTE

80 字

NOTE

(A)―②

次の英文の要旨を，70 ～ 80 字の日本語にまとめよ。句読点も字数に含まれる。

According to one widely held view, culture and country are more or less interchangeable. For example, there is supposed to be a “Japanese way” of doing business (indirect and polite), which is different from the “American way”(direct and aggressive) or the “German way”(no-nonsense and efficient), and to be successful, we have to adapt to the business culture of the country we are doing business with.

A recent study has challenged this approach, however. Using data from 558 previous studies over a period of 35 years, this new research analyzed four work-related attitudes: the individual versus the group; the importance of hierarchy and status; avoiding risk and uncertainty; and competition versus group harmony. If the traditional view is correct, differences between countries ought to be much greater than differences within countries. But, in fact, over 80% of the differences in these four attitudes were found within countries, and less than 20% of the differences correlated with country.

It’s dangerous, therefore, to talk simplistically about Brazilian culture or Russian culture, at least in a business context. There are, of course, shared histories and languages, shared foods and fashions, and many other shared country-specific customs and values. But thanks to the many effects of globalization — both in human migration and the exchange of technologies and ideas — it’s no longer acceptable to generalize from country to business culture. A French businessperson in Thailand may well have more in common with his or her Thai counterparts than with people back in France.

NOTE

In fact, occupation and socioeconomic status are much better predictors of work values than country of origin. A hundred doctors from different countries, for example, are much more likely to share attitudes than a hundred Britons from different walks of life. Language aside, a truck driver in Australia is likely to find an Indonesian truck driver more familiar company than an Australian lawyer.

Successful negotiation depends on being able to predict the actions of the other party. In an international context, to the extent that our judgments arise from ideas about national characteristics, we are likely to make the wrong predictions and respond inappropriately. Cultural stereotyping by country is just bad business.

（17 東京大 1-（A））

NOTE

80 字

東京大学英語対策講座　復習テスト　第一回

次の見出し語に相当する日本語を，下の①～④から一つずつ選びなさい。

1. multiple

① 単純な　② 親密な　③ 孤独な　④ 多数の

2. highlight

① 評価する　② 強調する　③ 変化する　④ 反映する

3. embrace

① 包括する　② 拒絶する　③ 褒める　④ 非難する

4. act upon

① ～とみなす　② ～を無視する

③ ～に基づいて行動する　④ ～と敵対する

5. premise

① 前提　② 思い込み　③ 革新　④　改革

6. safeguard

① 攻撃する　② 守る　③ 反対する　④ 嘆く

7. caregiver

① 介護者　② 未成年　③ 先生　④ 保護者

8. hierarchy

① 地域社会　② 海岸地域　③ 辺境地　④ 階層社会

9. predictor

① 偏見　② 予言　③ 指針　④ 捕食者

10. stereotype

① 測定する　② 固定観念で見る

③ 修理する　④ 違反する

NOTE

東京大学英語対策講座　解答編

　最難関の東京大学の英語であっても，復習の大切さは何ら変わりません。ここで得た知識や，ここでつかんだ感覚は必ず本番で生きてきますので，全てを自分のものにする心づもりで復習に励んでください。

肘井　学

※掲載内容について

本書に収録された解答・解説はスタディサプリが独自に作成したものです。

東京大学英語対策講座　第１講　解答

(A)—①

< 解答の流れ >

高	齢	者	に	や	さ	し	い	町	づ	く	り	の	活	動
は	、	高	齢	化	社	会	の	対	策	と	し	て	、	す
べ	て	の	世	代	を	考	慮	に	入	れ	る	ヴ	ィ	ジ
ョ	ン	を	促	し	て	登	場	し	た	。	し	か	し	、
そ	の	活	動	は	、	若	者	を	除	い	た	、	主	に
高	齢	者	の	必	要	性	や	利	益	に	焦	点	を	当
て	て	い	る	。	こ	う	し	た	ギ	ャ	ッ	プ	を	埋
め	る	た	め	に	、	現	代	は	若	い	成	人	と	高
齢	の	成	人	で	考	え	が	異	な	っ	て	い	る	の
で	、	ど	う	す	れ	ば	、	都	市	が	成	長	と	高
齢	化	の	両	面	で	良	い	も	の	に	な	る	か	に
関	し	て	、	複	数	の	世	代	か	ら	デ	ー	タ	を
集	め	る	こ	と	が	重	要	だ	と	研	究	で	示	さ
れ	て	い	る	。										

(200 字)

高齢者にやさしい町づくりの活動は、すべての世代を考慮に入れるヴィジョンを持っていたが、実際には、若者を除いた、高齢者の必要性や利益に焦点を当てている。どうしたら都市が成長と高齢化の両面で良いものになるかに関して、複数の世代からデータを集めることが重要だと研究で示されている。　(137 字)

↓

高齢者にやさしい町づくりの活動は、若者を除く高齢者ばかりに焦点を当てている。町をすべての年代に良いものにするために、複数の世代からデータを集めることが重要だ。　(79 字)

< 全訳 >

高齢者にやさしい町づくりの活動は，急速に増えていく高齢者人口への強力な対応として登場した。「高齢者にやさしい町」の定義は様々であるが，複数の取り組みや方法を反映して，多くのモデルが社会的なつながりを強める重要性を強調し，すべての世代を考慮に入れるヴィジョンを促している。例えば，国連の第 7 代事務総長を務めたコフィ・アナン氏は，1999 年の高齢化に関する国連の国際会議のオープニングスピーチで，こう宣言した。「すべての年齢のための社会は，すべての世代を受け入れる。それは，若者，成人，そして高齢者が別々のことをやって分裂しているものではない。むしろ, それは異なる世代が共通の利益を認識して, それに基づいて行動する, すべての年齢を受け入れたものだ。」

世界保健機関や他の国際機関は，加齢を生涯続くプロセスと定義して，この前提をさらにはっきりと述べる。「私たちは，人生のいかなる時でも，全員年を取るが，みな健康的で活動的な方法で，年を重ねていく機会をもつべきだ。高齢になっても，できる限り高い健康の質を守るために，WHO は，生涯を通じて健康に影響を与える要因に投資する取り組みを支持している。」

しかし，実際には高齢者にやさしい町づくりの活動は，主に高齢者，介護者，サービスの提供者の必要性や利益に，焦点を当てている。その際，何が都市での良い生活環境を生み出すのかについて，あるいは高齢者と共同作業する際の機会や障壁に関して，若者や家族からの十分なデータを集められていない。

こうしたヴィジョンと実践のギャップの原因は何か。1 つの答えは，高齢者にやさしい町づくりの活動が持つ，高齢者にとって良いものが皆にとって良いのだというよくある思い込みにあるのかもしれない。すなわち，もし高齢者にやさしい町づくりの活動が，社会を高齢者に適したものにするのに成功したら，そうした社会はすべての世代に適したものになるだろうということだ。異なる世代に多くの共通した関心事はあるけれども，アメリカやヨーロッパの最近の研究では，若い成人と高齢の成人で，1970 年代以降のどの時期よりも，投票パターンや姿勢が異なっていると示している。こうした研究は，年を取っていく過程での異なる段階にいる人々にとってやさしい都市を構成するものを十分に理解するためには，どうすれば，都市が成長と高齢化の両面で良いものになるかに関して，複数の世代からデータを集めることが非常に重要だと示している。

(A)—②

< 解答の流れ >

一	般	的	に	は	、	仕	事	に	お	い	て	、	取	引
相	手	の	国	の	仕	事	の	文	化	に	適	応	し	な
け	れ	ば	な	ら	な	い	。	し	か	し	、	国	ご	と
に	、	仕	事	の	文	化	を	一	般	化	す	る	こ	と
は	も	は	や	受	け	入	れ	ら	れ	な	い	。	実	際
に	、	職	業	、	そ	し	て	社	会	経	済	的	地	位
が	、	出	身	国	よ	り	も	ず	っ	と	優	れ	た	仕
事	の	価	値	観	の	指	針	に	な	っ	て	い	る	。
交	渉	が	う	ま	く	い	く	か	は	、	相	手	方	の
行	動	を	予	測	で	き	る	か	に	か	か	っ	て	い
る	。	国	の	特	徴	に	関	す	る	考	え	か	ら	判
断	す	る	と	、	予	測	を	間	違	え	る	か	も	し
れ	な	い	。	国	に	よ	る	文	化	的	な	固	定	観
念	は	、	悪	い	こ	と	で	し	か	な	い	。	(208 字)	

仕	事	に	お	い	て	、	取	引	相	手	の	国	の	仕
事	の	文	化	に	適	応	し	な	け	れ	ば	な	ら	な
い	と	さ	れ	る	が	、	国	ご	と	に	、	仕	事	の
文	化	を	一	般	化	す	る	べ	き	で	は	な	い	。
実	際	に	、	職	業	や	社	会	経	済	的	地	位	が
、	出	身	国	よ	り	も	ず	っ	と	優	れ	た	仕	事
の	価	値	観	の	指	針	に	な	る	。	交	渉	が	う
ま	く	い	く	か	は	、	相	手	方	の	行	動	を	予
測	で	き	る	か	に	か	か	っ	て	い	る	。	国	に
よ	る	文	化	的	な	固	定	観	念	は	、	予	測	を
間	違	う	原	因	と	な	る	。						

(159 字)

仕	事	に	お	い	て	取	引	先	の	国	の	文	化	を
尊	重	す	べ	き	と	さ	れ	る	が	、	国	に	よ	っ
て	仕	事	の	文	化	を	一	般	化	せ	ず	に	、	社
会	経	済	的	地	位	か	ら	、	相	手	の	出	方	を
予	想	す	る	こ	と	で	、	交	渉	を	成	功	さ	せ
ら	れ	る	。											

(79 字)

< 全訳 >

1 つの広く受け入れられている考えによると，文化と国は多かれ少なかれ交換可能である。例えば,「日本式」の仕事のやり方（間接的で礼儀正しい）というものがあり，それは「アメリカ式」（直接的で攻撃的）とも，あるいは「ドイツ式」（無意味なことはせず効率的）とも異なるとされ，うまくやるためには，私たちは，取引をしている国の仕事の文化に適応しなければならない。

しかし，最近のある研究は，この取り組み方に異議を唱えている。35 年の期間に及ぶ，558 の先行する研究によるデータを使って，この新しい研究は，次の 4 つの仕事に関連する態度を分析した。個人対集団，階級と地位の重要性，リスクや不確実性を避けること，そして競争対集団の調和である。もし従来の考えが正しいなら，国ごとの違いが，国内における違いよりもずっと大きなものになるはずだ。しかし実際には，これらの 4 つの考えの違いの 80% 以上が，国内で見られ，その違いの 20% 未満しか，国（の違い）に相関しなかった。

したがって，少なくとも仕事の文脈では，ブラジルの文化，あるいはロシアの文化に関して単純化して話すことは危険だ。もちろん，共通の歴史，言語，食べ物，ファッションや，他の多くの国特有の慣習や価値観がある。しかし，人間の移住やテクノロジーとアイデアの交換の両方でのグローバリゼーションの多くの影響により，国と仕事の文化を一般化することはもはや受け入れられない。タイにいるフランス人ビジネスマンは，出身国のフランスの人よりタイの取引相手との方が，おそらくより多くの共通点を持っているだろう。

実際に，職業や社会経済的地位が，出身国よりもずっと優れた仕事上の価値観の指針になっている。例えば，異なる国出身の 100 人の医師は，異なる職業の 100 人のイギリス人よりも，ずっと態度を共有する可能性が高い。言語はさておき，オーストラリアのトラック運転手は，オーストラリアの弁護士よりも，インドネシアのトラック運転手をよりなじみのある仲間と思う可能性が高い。

交渉がうまくいくかは，相手方の行動を予測できるかにかかっている。国際的な文脈では，国の特徴に関する考えから判断を下すと，予測を間違えて，不適切に反応する恐れがある。国による文化的な固定観念を抱くことは，まさに悪い取引なのだ。

第１講　重要語彙リスト

1	emerge	登場する
2	response	反応
3	rapidly	急速に
4	aging	高齢化している
5	definition	定義
6	vary	異なる
7	reflect	反映する
8	multiple	複数の
9	approach	取り組み（方）
10	method	方法
11	highlight	強調する
12	take O into account	O を考慮する
13	serve	務める
14	declare	宣言する
15	embrace	包括する，受け入れる
16	fragmented	分裂した
17	separate	別々の
18	-inclusive	～を含んだ，受け入れた
19	act upon	～に基づいて行動する
20	interest	利益
21	articulate	はっきり述べる
22	premise	前提
23	safeguard	守る
24	endorse	支持する
25	in practice	実際には
26	primarily	主に
27	caregiver	介護者
28	account for	～の原因となる
29	assumption	思い込み
30	constitute	構成する
31	critical	非常に重要だ
32	interchangeable	交換可能で

33	be supposed to	～することになっている
34	adapt to	～に適応する
35	challenge	異議を唱える
36	hierarchy	階層社会
37	traditional	従来の
38	correlate with	～と相関する
39	simplistically	単純化して
40	generalize	一般化する
41	may well	たぶん～だろう
42	counterpart	相当するもの
43	socioeconomic	社会経済的な
44	predictor	指針
45	Briton	イギリス人
46	walk of life	職業
47	～ aside	～はさておき
48	company	仲間
49	negotiation	交渉
50	party	集団
51	judgement	判断
52	arise from	～から生じる
53	stereotype	固定観念を持って見る

第１講　音読用白文　①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩

(A)─①

The age-friendly community movement has emerged as a powerful response to the rapidly growing aging population. Although definitions of "age-friendly community" vary, reflecting multiple approaches and methods, many models highlight the importance of strengthening social ties and promote a vision that takes into account all ages. For example, Kofi Annan, who served as the seventh Secretary-General of the United Nations, declared in the opening speech at the UN International Conference on Aging in 1999, "A Society for All Ages embraces every generation. It is not fragmented, with youths, adults, and older persons going their separate ways. Rather, it is age-inclusive, with different generations recognizing and acting upon their common interests."

The World Health Organization and other international organizations further articulate this premise by defining aging as a lifelong process: "We are all aging at any moment in our life and we should all have the opportunity to do so in a healthy and active way. To safeguard the highest possible quality of life in older age, WHO endorses the approach of investing in factors which influence health throughout the life course."

In practice, however, the age-friendly community movement has focused primarily upon the needs and interests of older adults and their caregivers and service providers. In doing so, it has failed to gather enough data from youth and families about what produces good living conditions in a city or about opportunities for and barriers against working together with older adults.

What accounts for this gap between vision and practice? One answer may lie in the common assumption of the age-friendly community movement that what is good for older adults is good for everyone. In other words, if the age-friendly movement succeeds in making communities suitable for older adults, those communities will then be suitable for all generations. While there are many shared interests among different generations, recent studies in the United States and Europe indicate that young adults and older adults differ in their voting patterns and attitudes more than at any time since the 1970s. These studies suggest that in order to fully understand what constitutes a city that is friendly to people at different stages of the aging process, it is critical to gather data from multiple generations about what makes a city good for

both growing up and growing older.

(A)―②

According to one widely held view, culture and country are more or less interchangeable. For example, there is supposed to be a “Japanese way” of doing business (indirect and polite), which is different from the “American way”(direct and aggressive) or the “German way”(no-nonsense and efficient), and to be successful, we have to adapt to the business culture of the country we are doing business with.

A recent study has challenged this approach, however. Using data from 558 previous studies over a period of 35 years, this new research analyzed four work-related attitudes: the individual versus the group; the importance of hierarchy and status; avoiding risk and uncertainty; and competition versus group harmony. If the traditional view is correct, differences between countries ought to be much greater than differences within countries. But, in fact, over 80% of the differences in these four attitudes were found within countries, and less than 20% of the differences correlated with country.

It’s dangerous, therefore, to talk simplistically about Brazilian culture or Russian culture, at least in a business context. There are, of course, shared histories and languages, shared foods and fashions, and many other shared country-specific customs and values. But thanks to the many effects of globalization — both in human migration and the exchange of technologies and ideas — it’s no longer acceptable to generalize from country to business culture. A French businessperson in Thailand may well have more in common with his or her Thai counterparts than with people back in France.

In fact, occupation and socioeconomic status are much better predictors of work values than country of origin. A hundred doctors from different countries, for example, are much more likely to share attitudes than a hundred Britons from different walks of life. Language aside, a truck driver in Australia is likely to find an Indonesian truck driver more familiar company than an Australian lawyer.

Successful negotiation depends on being able to predict the actions of the other party. In an international context, to the extent that our judgments arise from ideas about national characteristics, we are likely to make the wrong predictions and respond inappropriately. Cultural stereotyping by country is just bad business.

東京大学英語対策講座　復習テスト　解答

< 第一回 >

1. ④	2. ②	3. ①	4. ③	5. ①
6. ②	7. ①	8. ④	9. ③	10. ②